

議長定例記者会見 会見録

日時：令和3年9月6日 10時30分～

場所：全員協議会室

1 冒頭の挨拶

2 質疑項目

- 新型コロナウイルス感染拡大について
- 三重とこわか国体、三重とこわか大会の中止について
- 現知事の辞職について
- 次期知事への期待について
- 菅総理総裁選不出馬について
- 知事選と県議選の時期について

1 冒頭の挨拶

（議長）記者の皆さん、おはようございます。今は緊急事態宣言中でありまして、また、知事選やら県議補選等の最中でありまして、皆さまお忙しいと思いますけれども、今日こちらのほうにもお時間を作っていただきましてありがとうございました。またすぐ飛んで行ってもらわなければいけないこともあると思いますので、よろしく申し上げます。

改めまして、ただ今から9月の議長定例記者会見を始めさせていただきます。本日発表事項というのはありません。しかしながら、8月27日から新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言が発令されておりますので、感染拡大防止のため、県民の皆さまに向けて少し発信をさせていただきたいと思っております。新型コロナウイルスの三重県内における感染者数は延べ1万3千人を超えまして、亡くなられた方、昨日5日時点で138人となっております。亡くなられた方々に、心からお悔やみを申し上げる次第でございます。また、感染された方々にお見舞い申し上げますとともに、早期の回復をお祈りいたしたいと思っております。

この新型コロナウイルス感染症の収束に向けて、私から改めて県民の皆さまにもお願いをさせていただきたいと思っております。

まず、不要不急の外出の自粛の徹底として、感染力の強い変異株を警戒し、生活の維持に必要な場合を除いて、日中も含めた外出や移動の自粛、特に午後8時以降の外出の自粛をしていただくようお願いいたします。

次に、基本的な感染防止対策の徹底として、熱中症予防とコロナ対策を両立しながら、マスクの着用、手洗い、手指消毒、人との距離の確保、換気の徹底、そして体調管理などの感染防止対策により「感染しない、させない」を徹底し

ていただくようお願いしたいと思います。

また、新型コロナウイルスに感染された方はもとより、家族、職場の方などに偏見や差別に繋がる行為、人権侵害、誹謗中傷等は絶対に行わないようお願いをしたいと思います。三重県議会といたしましても、県民の皆さまの声を十分反映できるよう、臨機の議会運営により、知事等執行機関や国、市町等とともに新型コロナウイルスへの対応に取り組んでまいります。

さて、本県で今月と来月に開催される予定でありました「三重とこわか国体」、「三重とこわか大会」は一旦中止という決断が出されました。日々努力を積み重ねてきた選手の皆さんや支えてこられた保護者や指導者の皆さん、そして関係者の皆さんの心情を考えますと、私も本当に辛く哀しい決断であったと思います。しかし一方で、県民の皆さんの安全安心、命を最優先に考えますと、致し方のない判断だったのかなとも思うところでございます。また、9月8日から実施する予定でありました、三重県議会インターンシップ実習生の受け入れについても、県内への緊急事態宣言の発令により、致し方なく中止を決定したところでございます。

県議会の定例会議は、知事選の影響でスケジュール変更を行い、新しい知事のもと、いよいよ10月6日からスタートすることになっております。三重県議会としましては、感染防止対策を徹底いたしまして、これまで以上に気を引き締め、しっかりと取り組んで参りたいと考えております。私からは以上でございます。

2 質疑応答

○新型コロナウイルス感染拡大について

(質問) 幹事社です。まず、今のその呼びかけの内容から質問をさせていただきたいと思います。まず一つなんですけども、県議会のコロナの感染防止対策なんですけども、今ちょうどこうして感染も落ち着きつつあるもののまだ依然多い状況であるかと思うんですが、今後議会が10月から始まるにあたって、こういった対策を取られていくのか、その部分を改めて教えてください。

(議長) ありがとうございます。これまでも、いわゆる三重県議会新型コロナウイルス感染症対応マニュアルに基づいて対応してきております。会議関係者に特に感染者等が生じた場合の議会運営等も、それを決めているわけでありませんが、議会の本来の機能である政策決定とか、また、知事等との事務の執行について監視及び評価を行うことができるように、できる限り会議を開催するとともに、今も県民にも言わせていただきましたけど、私どもも足元を見つめながら、消毒の徹底、扉の開放、概ね1時間に1回の換気休憩、常時マスク着用といった感染防止対策も徹底しながら議会運営はやっていくということでござ

います。ちょうど8月の末から9月にかけて私も副議長や議会事務局ともちよつと相談をしていたんですけども、ちょうど1日が防災の日でもありますし、いろんな意味での防災ということで、改めて9月に入って、私どもで何ができるだろうかといろいろと考えさせてもらっております。まずはいろんな形で、県民の方々への声掛けはもちろんのことでございますけども、私どもの、例えば議場でのことと、それから委員会だとかいろんな部屋がございますし、また控え室もございます。もう一度見直し、また不備な点があればそれも徹底して参りたいと、再度見直しもして参りたいと思っております。以上でございます。

(質問) ありがとうございます。あと、もう一点、国体の部分に今触れられたかと思うんですけども、国体の部分については致し方ない判断だったということだったと思うんですが、一方で、急転直下、突然会期前競技はやるって言ったものが1週間後にはもう中止というような判断になったわけですけども、その部分のいわゆる県の判断、その部分について議長として、副議長それぞれどういった考え持たれていますでしょうか。よろしく申し上げます。

(議長) はい。先ほども少し触れましたけれども、競技団体の方々とか選手の皆さんにとりましては、絶対したいことだったと思います。当然、7月の段階は、まだまだやれるかなというような、意向調査もあったようでございますけども、このお盆近くになってきて急激に感染者が増えてきた中で、何とか対策をしてやりたいという思う反面、いろんな状況が変わってきているので、その辺は決断をせざるえない状況になったのではないかなと。おそらく、そういう競技団体の方からとか、それからそういったスタッフの方々、そして補助の高校生の動きとか、いろんな意向も聞こえてくる中で、県としても国へ緊急事態宣言を申請するタイミングで、こういったことを決断されたのではないかなと思っております。以上です。

(質問) 副議長。

(副議長) はい。10年近くにわたって準備をしてきた国体ですので、いろんな思いの詰まったものであるというふうに思っています。それに対して、この新型コロナの影響とはいえ、知事のほうで、先ほど言っていた急転直下の判断ということでもありますけれども、この中止にしたという判断は、これまで10年かかって準備をしてきたことの重みと考えると、これは後の人が評価をすることになると思いますけれども、歴史の重みに耐えられる決断だったかどうかというのは非常に難しい問題だなと思います。

(質問) 今、稲垣副議長おっしゃった、歴史の重みにとっては難しい判断だったということですが、それは、やっぱり今の感染状況を考えるというよりは、やっぱり歴史的に考えると、将来的には、あの時開いておくべきだったと思われてもおかしくないというような意味でしょうか。

(副議長) そうですね。今の評価は、確かに知事は苦渋の決断をされたということだと思ってます。しかし行政というのはずっと続いていくものですから、将来の人たちから未来の人たちからどう評価されるかっていうのは、非常に難しい判断なんだろうなと思っています。

○三重とこわか国体、三重とこわか大会の中止について

(質問) ちょっとその上で申し訳ないですが、お答えづらい質問かもしれませんが、また今日も国体の会議あるそうですが、これからその中止になった国体を延期するの可否かというのは、これからの議論になると思いますが、今、どのように思われているかお願いします。

(議長) ご質問ありがとうございます。今、当局からのいろんな情報もいただいているわけですが、まず明日、実行委員会の第5回の総会が開かれるということをご報告いたします。知事、また局長のほうから中止に至った経緯とかですね、そういった報告がなされると聞いています。今記者言われましたように、今後のことについてはまだ渦中なのかなと思っていますけれども、もうすでにスタートしているかもわかりませんが競技団体の関係者の方々のご意向とか、いろいろ負担を持ってもらってます市町の方々のご意見とかですね、そういったこともありますし、私ども県議会としましても、9月の半ば、延期するかの期限はひと月しか待ってもらえないし、ルールを破るわけにいかんという話も聞いてますので、そうするともうぎりぎり9月26日には延期するか中止するかを決めやなあかんわけでありますので、議会日程を考えますと、9月の17日に代表者会議がありますし、また22日には本会議も予定をされておりますので、そのあたりで代表者会議なり全員協議会なりを開くことによって、県議会のメンバーの意見もしっかりと聴き取りさせていただきたいということで、この頃にはもう新知事になるわけですが、お伝えする必要があるのでというふうに思っております。この辺は積極的に、地域で選ばれている議会の皆さんにしっかりご意見賜りたいと思っています。以上です。

(質問) 今月半ばごろにもそういった全員協議会なり代表者会議なりを開いて、議員の延期の是非可否についての声を聞き取るということで、理解してよろしいですか。

(議長) そうですね、期限が決まっていますので、それも26日ということですし、24日には実行委員会も開かれると聞いてますので、そうするともうそのあたりがぎりぎりかなということ。

(質問) その聞き取ったご意見は県当局の執行部のほうに伝えられるなり、要望されるなりということですか。

(議長) 当然、全員協議会を開くとなりますと多種多様の意見が出てますからその時はもう、十分新知事なり、また当局にも伝わると思っております。

(質問) 副議長も同じご意見でしょうか。

(副議長) はい。議長言われたとおりで、当然関係団体とか、市町の意見をしっかり聞きながら、やはり議会としてもしっかり議論する必要があると思っております。

(質問) 市町の意見はどうやって聞くんですか。

(議長) これにつきましても、実行委員会に所属している県当局が競技団体等に聞くのと並行して、市町へは県当局が聞いておると思っております。今回も県の負担分とか市町の負担分とか、話し合いながら進めてきておると思いますので、次回延期となった場合は、それぞれまた新たなスタートになりますので、その辺もご意見が出るかなと想像しております。

○現知事の辞職について

(質問) 改めてですけど、感染状況が今大変に広がっている中で、改めてになるんですけども、この時期に知事が辞職されると議長もお受け取りになつたと思いますけれども、そのことの受け止めに、今この感染状況を踏まえた上で、改めてお聞かせいただけますでしょうか。

(議長) ご質問ありがとうございます。この時期にということへの思いですかね。現知事の退任に当たっているいろんな思いがあるんですけど置いておいて、今の特化した質問としますと、この時期にというようなことなんですけども、結果論でいろいろなことが分かってくるので、どうなのかなと思うところも僕もあるんですけども、ご本人としては当初、衆議院を目指して三重県にみえて、いろいろな方々から知事への推薦もあって、一定、しっかりと割り切って県の

ことについて本当に頑張ってみえたと思います。しかしこのタイミングで、というようなことの意図かなと思うんですけども、例えば7月の27日かな、知事が三ツ矢代議士と会われて決断されたのかなと僕は想像してるんですけども、当時の感染状況は、今と比べると確か感染者は20人ぐらいで、病床利用率が25%ぐらいだったかな、それから、重症病床利用率は8%とか、10%を切ってたと思います。それで、7月末の今問題になっている自宅の療養者につきましては、100人切っていたという状況で、感染状況を見てなぜ今って言うような方も、思われている方もあるかと思いますが、感染状況だけ見れば結果的には今の状況になることは、知事も誰もなかなか想像、想定することはできなかったのではないかなと思っています。もし、もう少し早くって言うような、例えば7月の頭に2区の方とか3区の方のように早く決断して、周知をされてるといえることがあったら、ちょうど7月の10日ごろでしたかね。そうすると、知事選が8月下旬に行われてしまってるわけですから、これも結果論かも分かりませんが、緊急事態宣言とか、とこわか関係のイベントにつきましても、その判断を職務代理者がしなければならないことにもなっていたかも分からないな、そんなこともいろいろめぐらすわけですけども。9月12日まで任期を延ばして、最終際の際まで結論延ばしていただいて、最後まで頑張り抜かれるということは一定、良かったんじゃないかなと思っています。僕の考えです。以上です。

(質問) 副議長いかがでしょうか。

(副議長) 政治家がやっぱりいろいろ思いを持っていますので、判断をして、知事の場合は国政を目指したいって判断されたってということについて、我々がどうこう言うことじゃないかなと思ってまして、ですので、政治家のそういう判断するのは、やっぱり尊重されるべきかなって思うのは思っています。

○次期知事への期待について

(質問) 次期知事に対して、どのように期待されるのかとかその部分もそれぞれ議長、副議長ありましたらよろしくお願いします。

(議長) 誰が当選されるか私は分かりませんが、3人の方のうちでってことで、今、選挙中でございますが。新知事、どなたさんになられましても、思うことはございます。自治体の長、そして議会の議員を直接両方とも選挙しておりますので、いわゆる二元代表制のもとでこの三重県は動いているわけでありまして、どちらも県民の負託に応えなければならないと思っております。やっぱり緊張ある関係というのですかね、今までもそうですけどもそういった関係

を保ちながら、独立、対等の立場において政策決定とか、知事等の事務の執行についての監視、さらには評価を行うことが非常に大事でありますし、議会としましては、政策立案および政策提言を行っていく、そういったことも考えておりますので、このような知事との関係を新知事が認識していただきたいなという思いはございます。併せて、新型コロナウイルス感染症で、議会からも、27日も全協でも、また分科会でも、いろいろな議論ございましたけども、議会からの意見を尊重していただきたいなと。新知事さんも、この当局としていろいろな情報も専門家の意見も聞き取りながら前へ進めていただけたらと思っておりますけども、議員っていうのは、それぞれの地域で一番身近な地域の住民と身近なところで生の声を聞いたり、また寄り添って活動しておりますので、そういったことも含めてしっかりと尊重していただきたいと思っております。今回、県民一人一人もありますし、大変苦しんでみえる事業者の方々の生の声も、いろんな方から聞いているわけでありますので、地域によっても、南北に長い三重県でございますので、それぞれ地域性違うか分かりませんので、そういった課題を把握して、議会でもその実情を踏まえて、執行部に提言をしていきたいなと思っております。それぐらいでいいですかね。また副議長にも。あまりしゃべりすぎてもよくないので。

(副議長) 今、議長が言われましたので、私もそのとおりでなというふうに思っています。議会との関係っていう意味で、二元代表制という三重県議会、あるいは県執行部とのこれまでの関係もありますので、確かにそれを大事にさせていただきたいと思っておりますし、議会での議論を尊重していただきたいというふうにも思っています。議長、言われましたように、新型コロナの対応もありますし、もちろん先ほどありました、国体の延長の判断っていうのもありますので、最初からアクセル全開でやっていただきたいというふうに思います。

(議長) 敢えて言うなら、新知事、当選された直後にいろいろご挨拶をお見えになると、その時いきなりというわけじゃないですけど、やっぱり私どもだけではなくて、いろんな会派のご意見、それから、一人一人の議員の思いもあると思っておりますので、これまた、代表者会議とか、そういう時期に新知事への要望なり、どういう形になるか分かりませんが、そういったこともまとめてお伝えしていければなと今はそういう思いでございます。

(質問) ありがとうございます。各社他に質問ありますでしょうか、発表外でお願いします。

○菅総理総裁選不出馬について

(質問) 国政の話で恐縮なんですけれど、お二人に伺いたいんですが、菅総理が次期総裁選に出馬されないということを表明されました。3日の日に。そのことへの受け止めをお願いします。

(議長) 国政の話なんで議長が言うべき内容かなと思いますけども、そういうご質問でございますので、ある程度、私ども個人的な思いでよかったですらお伝えしたいと思います。菅総理っていうか、総裁にもこれまでもいろんな機会がございまして、お会いすることもございました。本当に、評価といたら失礼ですけども、私利私欲のない、どうしたら国民のために何ができるかなっていつも考えてる方だなと思います。実際一年間ではありましたけども、このコロナ禍の厳しい中で、希望される方のためにワクチンを優先的に確保される努力をされたりとか、それから印象的なのはこの9月1日スタートのデジタル庁の創設をスタートされ、これもいろんな規制緩和云々で難しい状況だった中、とにかくスタートされたっていうことだとか、携帯電話安くされたりとか性格的なこともあると思いますけど、パフォーマンスをすることなく、非常に誠実に物事を進められたのではないかなと思いますし、ちょうど一年前に私、立場上、総裁選のことも関わらせてもらいましたし、記者の皆さんには4回ほど、会見も求められたところでもございましたけど、その時には安倍総理のもとで、官房長官されて、体調不良ということがあっても、自分が出なきゃっていうのは、本当の責任感の塊のような行動されたんじゃないかなと思っております。それまで仕えてみえたこれまでの取り組みを何とか継承したいと、昼夜を問わず全身全霊で頑張られたんじゃないかなと思っておりますので、今回の記者さん言われる決断については、でいろんなことを総合的に状況も考えて責任ある判断をされた、国民のために今、自分が出ない方がいい、そして、最後に任期のある限りコロナ対策頑張るということだったんじゃないかなと思ってます。以上です。1つだけ残念なことが僕の思いにあるんですけど、1回ぐらいは伊勢神宮に来てほしかった。以上です。

(質問) 副議長もお願いします。

(副議長) 私も感想と言いますと、非常に驚いたっていうのが思いです。新型コロナ対策に最後全力を尽くすって言われてますので、収束に向けた道筋をつけていっていただけたらなというところを願うところです。以上です。

(質問) 各社さん他に発表外で質問ありますでしょうか。

○知事選と県議選の時期について

(質問) 知事と県議の任期満了の時期がずれることですが、それによって選挙費用の負担も6億ほど、4年に1回生まれていくと。ここはもう辞められて任期がずれる以上、それは致し方ないことにせよ、そのお金をどうしていくかというのは課題として現実にあることだと思いますけど、できることと言えば限られているかもしれませんが、それへの打つ手として議長は何かお考えはありますか。

(議長) 質問ありがとうございます。前回もこれと同じような質問をいただいたような気がするんですけども、副議長も言われたように、本人が決心されて、それを自分勝手だと思う方もあれば、僕は特に前々から知事になるために三重県に来たんじゃなくて、ここでという思いが当初の目的があったと思いますので、それに対して僕は前知事8年、その前の知事も8年だったと思いますね。普通はそのくらいでというような感じがするんですけども、10年以上も県民のために頑張られた姿を考えました。たまたま新型コロナのこともあったりして、途中の退職となったわけですけども、前例にもあるように、元知事さんもそういうこともあってルール化もされているわけですので、費用の面についてはできることなら同時のほうが望ましいかもしれませんが、なかなかそれを押し量ってすることが難しいこともあります。10年以上頑張られたわけですので、それまではひょっとしたら、各選挙区が5つの時も4つの時も現職がみえるときにはそんなん割り入って、今までも出るチャンスがあったんじゃないかと言われてもなかったわけですので、今回本人の意思を通されたんではないかなと思っていますので、それは同じ時期になれば一番費用面では良いけれども、致し方ないことかなと思っています。

(質問) その点についてはもちろん致し方ないことは承知しつつ、去る者は追わずとして、この残された県議会と知事の任期のずれをいかにしていくかというのは、残された県議会と知事が担っていくことという前提の上で聞くんですけど、例えば辞職の時期など、県内の他の市でもそういった同日選にするためにタイミングを調整するというようなことを行われたケースもございますね。議長として、例えばそういった考えが県議会においてもあるべきなのか、それともそれぞれの任期はそれぞれの任期で全うしていくべきなのかという、そこのお考えいかがですか。

(議長) ご質問ありがとうございます。それでいくと、もう8年任期のときに辞めたほうがよかったなということになりかねませんけども、そのときはぜひもう一回頑張ってほしいという県民の声もあったわけなので、ご判断されたわけです。今後、新知事誰がなられるか分かりませんが、新知事がこれは

考えられることであって、それは参考にされるかなと思うくらいで、それは縛るものではないと思っています。

(質問) 副議長も同じ考えでいらっしゃいますか。

(副議長) そうですね。コスト面は確かにかかるという話もあります。やっぱり民主主義の中で必要なコストだという理解でなければいけないと思いますが、それよりも問題なのが投票率だと思っていまして、選挙が統一地方選と外れること、違うときにやることによって、投票率に影響がどのくらい出るのかとか、というのは結構重要かなと思っています。それを投票率が下がらないように我々も含めて、しっかりと知事選挙は大事だということを啓発していく必要があるのかなと思っていますし、それで影響があるようであれば、新しい知事がまた判断をされる、今議長が言われたとおり、そういう状況を見ながら判断されることかなと思います。

(質問) 各社さん他に質問ありますでしょうか。第二さんはいらっしゃらないみたいですね。これで終わらせていただきたいと思っています。

(議長) お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

(以 上) 11時05分 終了